1 月 29 日の礼拝メモ

『教会の目指す愛による一致』

コリント人への手紙第一 12:12～14,26,27

体の部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、
キリストもそれと同様です。(12 節)

序〕

元旦礼拝で、今年の目標に基づくヴィジョンが示され、各週に亘って、聖書示す真の教会の姿を学んできた。今日は、我らの教会の方向性を聖書から確認する締め括りの時。のちに教会総会を控えた礼拝、まとめ的な意味も含めて「教会の目指す愛による一致」について、御言から学ぶ。

本〕

教会は「神の家族」であるとともに、「キリストのからだ」といわれる。「からだ」に望まれているのは「健康」である。コリントの教会は不健康な状態だった。個人の賜物を巡って分裂していたコリント教会を、パウロは「からだ」にたとえ、教会員たちを体につながる「各器官」にたとえた。そして体が健康になるためには、各器官が上手に調和していく必要があると説いた。今日の箇所から、教会が一致するために我らが覚えるべき原則を知れる。

Ⅰ教会には多くの個性があってよい(14)

久留米教会にも個性豊かな人々が多く集まっている。個性が多くあることが問題なのではなく個性をもった人間が他者と比べようとするから問題なのである。■パウロは、個性に関して二つの警戒を与えている。まず自己卑下する必要のないこと(15、16)。また優越感に浸ってはいけないことを記している(21)。

Ⅱ個性は、神が備えてくださったもの(18)

体にとって不必要な器官がないように、教会にも必要のない人など一人もいない。神が備えられた。

Ⅲ教会にとって、目立たないような人が実は大切である(22～24)

司会も、証も出来ない。ピアノも弾けない。だから自分はだめなんだと思う必要はない。何も目立たなくても、忠実に集会出席に励んでいることで、教会全体の成長につながっていることを忘れてはならない。だから、今年も教会を休まないように努めよう。

Ⅳ教会は一人一人がいて、初めて教会である。(25,26)

1 月第三聖日に学んだように、今年、神様は我々一人一人に、「受身的な傍観者になるのではなく、積極的な教会の建設者になって欲しい」と願っておられる。

結〕

教会には調和が必要である。そのためには協調性が欠かせない。誰かが抜ければ教会は建て上がっていかない。この年、誰もが自分のためだけに奔走するのでなく、教会を中心とした日々の生活に組み直してみよう。もう一度、改めて今年の教会標語が含まれるピリピ 2:1～5 を心に留めて教会総会に臨もう。